



## 三瀧コラム 中国「津津有味」-32

其の他の日常行動で面白いのが、マイナスイメージの回答が、大きく二つに大別されることです。その1つは、異文化という観点から見ればマイナスでないはずのことを、自分たちの風俗習慣からマイナスと見てしまう、あるいは、前述のように、長所と見れば長所なのに、短所に分類してしまう事柄です。例えば中国人の習慣でマイナスイメージの一位は食事の食べ残し。しかし、これは料理を残して、「あなたは私をお腹いっぱいにしました。誠意は尽くされました」ということの証明ですから、マイナスとされる行為ではありません。また、第2位が「古い風俗習慣に縛られている」というものでしたが、この分野でのプラスイメージの同じ2位が「旧正月を大事にする」ですから、表裏の関係です。ちなみに、2016年の春節、人民日報の調査では、家で“年夜饭”を食べた人87%、外では8%、食べなかった人5%と言うのですから、確かに、日本人以上に正月の風習はしっかり受け継がれていると言えましょう。

マイナスイメージの第三位は、「騙される奴が悪い、と思っている」こと。しかし、中国は商業民族社会です。買い物はよく言う「討価還価」、つまり値切り交渉の場。店の主人はいかにして高く売ろうか、買い物客はいかにして安く買おうか、丁々発止を久しく“楽しんで来た”民族ですから、「騙される奴が悪い」は根本的なゲーム規則です。日本でも大阪の人間は定価を値切りもせずに買うことはまずないでしょう。もちろん、最近のバーコードは簡単に値切れませんから、中国も変わるかもしれません。

もう1つは中国人のマナーに関する分野で、社会が発展する過程で必ず通るプロセスの現象あり、国民性などと捉えて非難するには当たらない項目、言い換えれば、まさに私の若い頃（昭和40年、1960年代）の日本と同じ現象が列挙されているのです。

その一位は交通ルール無視です。当時の日本も人より車優先で、雨の降る日に舗装の悪い道を車がスピードを落とさず走るため、通行人に泥水が撥ね、社会問題になりました。

第二位のポイ捨ても、そもそも「ポイ捨て」なる言葉ができたこと自体、一時日本でそれがいかにひどかったか、という事実の裏返しで、万策尽きたのち、これを改善するにはゴミ箱の設置だけではだめで、ゴミを捨てにくくなるようなピカピカの床にしよう、ということになり、それが浸透した後、今度は極力ゴミ箱を取っ払って持ち帰らそう、という段階に進みました。いま、中国は床がピカピカのショッピングセンターなどでポイ捨てが無くなりつつあり、着実に日本と同じプロセスを歩んでいるのです。

第三位の「クラクションがうるさい」、も懐かしい話。日本でこれを防ぐために騒音防止条例なるものが施行されたことは鮮明に覚えています。第4位の乗降時に譲らない、ことも、当時、降りる人を待つ、というマナーがなく、山手線で子供の私が下りるに降りら

中国日本商会

みつま

# 三渚先生の 「ナルホド中国、ナットク中国」



れなくなりそうになったのを父が必死に守ってくれたことを思い出します。中国でも高速鉄道はみんな並びます。横入りしそうな中国人がいたら、怒らずに、「お急ぎのようですね。どうぞお先に、どうぞ、どうぞ」というと、誰もが恐縮して、必ずこちらを先に行かせてくれます。